

はじめに

東大阪市長の野田義和です。

この動画を見ていただいている皆さんは、東大阪市の職員になりたい、採用試験を受けてみたい、また公務員という職業に就いてみたい、そんな思いを持っている人たちがこの動画を、見ていただいていると思います。

私から、皆さんにお伝えしたいことは、公務員になりたい、職業として公務員を選択したい、と思っている人達、ぜひとも、市町村、基礎自治体で働くか、また、国家公務員、税務職、など国の機関で働くか、どちらかを選択して欲しいなと思います。なぜかと言いますと、私たち基礎自治体は、常に住民と、国民と、市民と向き合っており、国家公務員は、まさに、国家を運営するために、様々な組織、現場で働くという立場です。この基礎自治体、あるいは、国家公務員というのは、公務員としては、ある意味で、一番面白い仕事ではないかと思えます。都道府県が面白くないというわけではないんですが、私の思いとして、まずそのことを伝えたいと思えます。そしてその中で、東大阪は、基礎自治体で、市町村で働きたい。その中で、様々な動機があると思いますが、どうしても東大阪で、働きたい、チーム東大阪の一員として、プレイしたい、その熱い思いをもっている人達を歓迎したいと思えます。ぜひとも、公務員になりたい。その中でも東大阪で働きたい、そんなふうに思って、ぜひとも東大阪に、チャレンジしてください。

東大阪市の魅力

東大阪ってどんなまち。そんなことを、少しお話をしたいと思えます。

東大阪は、私は、都市問題のデパートという表現をよく使います。

そんな言い方をされると、聞いた方は、東大阪って、問題が、課題がたくさんあるのかな、そんなふうに思ってしまうかも知れませんが、そうではなくて、東大阪は、飛行場がありません、海に面していません、言い換えれば、地方自治体として、飛行場と、海に関する問題や課題以外は、すべてあります。ということは、たくさんの仕事のやりがいがある、ということなんです。同時にそれだけたくさんの課題があるということは、市のポテンシャル、すごく、一つ一つの要素が、市を構成して、東大阪市というのは大変ポテンシャルの高いまちであるということ。そういうまちであります。だから、東大阪市っていうのは、とにかく、働きがいがある。やりがいがある。もっともとのびていくまちであります。

東大阪市には、花園ラグビー場、「ラグビーの聖地」と言われている日本で最初に作られたラグビー場があります。2019年には、日本で初めて、アジアで初めて開催された「ラグビーワールドカップ」を4試合、花園ラグビー場で開催をいたしました。ラグビーだけでなく、様々なスポーツ、東大阪市内全域で、多くの人たちが、年齢を問わず、そして、日本で、最初にできた、作ったと言われているウィルチェアスポーツコート。車椅子を使って、年齢や性別、そして身体が、元気、不自由そんなこと関係なく、同じ場所で、スポ

ーツをやろう。そんな取り組み、スポーツを通じて、東大阪のみんなが、明るく元気になろう、ラグビーのまちらしく、取り組んでいます。

東大阪といえば、モノづくりのまち、中小企業のまち、と言われていています。東大阪市にはたくさんの町工場があります。そして、大企業はあまり無いですが、しかし日本のモノづくり産業を支えている町工場、中小企業はたくさんあります。国内外で、走っているほとんどの自動車には、東大阪市の企業が作った部品が使われています。新幹線、東京スカイツリー、携帯電話、皆さんが、毎日使っている ICOCA とか PITAPA とか、あのカードも東大阪市の企業が作っています。東大阪の中小企業、町工場は、日本のものづくりを支えている。日本にとって一番大切なこと、これは、食料、エネルギー、鉱産物資源、自給ができない日本において、日本人が作ったものが世界で通用する、売れる、このことが日本の未来を確かなものにする大きな要素なんです。言い換えれば、日本の未来を確かにするためには、東大阪市の中小企業モノづくりが、元気でなければならない。東大阪市職員は、東大阪のモノづくり町工場中小企業を、しっかりとお支えをすることで、日本の未来も、私たちは支えているんだ。そんな、誇りをもって、仕事をしています。東大阪市のモノづくりというのは本当に素晴らしいモノづくりがあります。

また、東大阪には、5つの大学があり、大阪大学医学部・歯学部とも、東大阪市は連携をしています。大学の英知を、東大阪のモノづくりに。時には東大阪の教育、子供たちの学びのために、大学の力もお借りをしながら、さらには今東大阪市は、公民連携、何でもかんでも。市が全てやるのではなく、企業や大学や、あるいは様々な活動をされている団体と、しっかりと、タッグ・スクラムを組んで、お互いの持っている力を出し合いながら、地域の発展、一人ひとりの幸せ、大きく言えば日本の未来を創っていこう、そんな取り組みも、先駆的におこなっています。

冒頭言いましたが、東大阪たくさんの課題、問題がありますけれども、その課題や問題は、私たちが、取り組むことによって、すばらしい花を咲かせ、実を結び、種を作って、未来に繋がっていく、いわば夢のある課題や問題なんです。

そんなことがたくさんある町で、東大阪はもっともっといいところがあります。

東大阪市内にはおいしいお店、ラーメン屋さん、お好み焼き屋さん、たこ焼き屋さん、おしゃれなお店もたくさんあります。少し生駒山の方に、あがっていただくと、すばらしい夜景がみえるスポットもたくさんあります。それと、東大阪は今、駅が26あるんです。あと10年足らずで、大阪モノレールが東大阪市内まで延長していきます。モノレールの駅が3つ、近鉄奈良線にも駅が1つできます。やがて東大阪は30の駅ができます。ある意味では、人口規模の割には、市域面積が狭い東大阪ですが、そこに30もの駅があるということは、そして、道路交通が非常に充実しています。東大阪っていうのが、大阪・関西の中心になる、道路や鉄道をみると、そんな見方ができます。新幹線にも繋がっている町とも言えます。ぜひとも、東大阪のそういった、様々な、資源、高いポテンシャル、すごい町なんです。東大阪という町を、大好きになくなって、市職員として、頑張っって欲しい。そんな思いを持っています

東大阪市が求める人物像

東大阪市職員として、どのような人材を、求めているか。最後に、そんなお話をしたいと思います。東大阪市職員みんなには、東大阪市の職員として、「返事・挨拶・声・ダッシュ」、「返事・挨拶・声・ダッシュ」、そのことを求めています。これは、東大阪の学校、あるいは、大阪府内の学校でも、同じような合言葉を、持っているところがあります。「返事・挨拶・声・ダッシュ」というのは、本当にすばらしい言葉だと思っています。市民の皆様から、いろんなお話をいただきます。まずやっぱり返事をはっきりとする、職員同士で仕事をしている、チームで仕事をしていますから、チーム同士、もちろん市民の皆様にも、あいさつをする、声をかけ合う、そして、ダッシュ、すぐに、全力で動く、「返事・挨拶・声・ダッシュ」、そんな気持ちで、そして、体全体が、「返事・挨拶・声・ダッシュ」、として動くような、そしてチーム全体が、「返事・挨拶・声・ダッシュ」で動くような、そんな職員像を私は目指しています。ぜひとも、そういう心構えで、試験を受けてください。「返事・挨拶・声・ダッシュ」忘れないように。

もう一つは、東大阪市の職員になったら、「前例がない」とか、何かやろうとしたときに、「法令がない」とか、「予算がない」とか、そういったことを口にしない。言い換えれば、何かやろうとしたときに、自分、あるいは、市としてこんなことできないよ、けど、できないっていうことを、何か理由をつけなければならぬから、「前例がない」とか、「法令がない」とか、「予算がない」とか、出来ない理由を述べる、それはやめておこう。だから、東大阪市の職員はそんなことを口にはしてはいけぬ、ということも職員のみなさんに言っています。これは、市の仕事だけでなく、この動画を見ている皆さんのこれからの人生にも、きっと役に立つ、通じることだと思います。何かをやろうとしたときに、やるためにどうしたらいいのかということ、考えて欲しい。何かやろう、夢を持ったときに、余りにもそれは無謀だ、自分にとっては分不相応だ、そんなことを思って諦めるための理由をどんどん作り出す、それをやめておこう。少し分不相応かもわからない、あるいは、無理な、実現不可能な夢かもわからない、しかし、東大阪は、チーム東大阪は、それでも、否定理論ではなく、何か、どうしたらやれるんだろう、そんな考えた方から、物事に、取りくんでいこう、そんな熱い思いを持っている人たちを求めています。

「返事・挨拶・声・ダッシュ」、東大阪市職員たるもの「前例がない、法令がない、予算がない」そんなことは口にしてはいけぬ、口にはしない、否定理論から何も生まれぬ。何かやろうとしたら、すぐにやる、必ずやる、できるまでやる。そんな強い意志をもった、志を持った人達を、東大阪は求めています。

ぜひとも、夢がたくさんある、夢を実現する仕事。それが、チーム東大阪、東大阪市役所だと私は思っています。皆さんの、積極的なチャレンジ、心から期待をして、そして、来年4月1日に、皆さんと会える日を、楽しみにしています。

東大阪市、ぜひともチャレンジしてください。